

令和7年度4月号 重点目標『共に～Together～』



小手中魂

所沢市立小手指中学校 校長 結城 尊弘 令和7年4月8日発行
【生徒数：1学年199名 2学年188名 3学年243名 8組12名 合計642名】

教育目標「主体的でたくましく生きる生徒」

合言葉「チーム小手中」とは
情熱・授業力・社会性を持ち、生徒を
第一に考える教師集団のこと



令和7年度入学式式辞 「一度しかない中学時代をどのように過ごせばよいか」

皆さん、入学、進級おめでとうございます。小手指中には「自分が成長する、変わるチャンス」が溢れています。皆さんが主体的にたくましく生きる力を身につけた生徒となって羽ばたいてくれることを期待します。

さて、これからの3年間を考える上で、3つの心がけをお話します。

一つ目ですが、世界には今もなお、戦火が絶えず軍事力におびえて過ごしている地域があります。そのことに思いをはせたとき、日本で中学校に入学できたということは、「自分が恵まれていると自覚したら、何をするのか」ということです。恵まれた中で得た力を、誰のために使うのか、自らが自覚し、感謝し、社会のために何ができるかを本気で考え、中学時代のうちに自らに問い、決意を固めることが第一の心がけです。

二つ目は「人生をかけての志を持て」ということです。「君は自分の人生をかけて、何を成し遂げようとしていますか」と問われ、あなたは答えられますか。しれません。しかし、中学時代に、その問いかけに向き合い、自分の人生をどうするのかという志を立てることが重要です。小手中生には、人類が直面している課題を解決する創造的なアイデアと幅の広い柔軟な見方をもち、様々な分野で「社会に貢献するリーダー」になってほしいと願っています。

三つ目は、心がけとして、具体的には、「自ら調べ自ら考えよ」ということです。この積み重ねをどれだけできたかが、人生を豊かにし、人生を生きるためのエンジンになります。中学時代のうちに自身の中にしっかりとこれを装着できるかということです。学びは決して人から与えられたから学ぶというのではなく、自らの「好奇心」や「向上心」をもとに、仲間とも対話を重ねながら学ぶものです。また、正解に早くたどり着くことが学びではなく、簡単に解決できない正解のない問題をどう解決しようかと、考え、みんなで取り組めるようにしていくことが学びの本質です。

一方で、学びに関して、陥りやすい落とし穴があります。心をこめて二つアドバイスをします。

一つは「基礎基本を軽視しない」ということです。武道や芸道では、「守破離」と言われ、上達するには、まずは型を守り、次に型を破り、最後に型から離れて自分の個性を発揮する段階があります。つまり、自分で考え、個性を発揮しようといっても、基礎基本が型として守られるようになるまで、反復して身につける必要があります。基礎基本を軽んじてはいけないということです。

二つ目は、「知識」と「知恵」を身に付けようということです。知識というのは、本を読んだり授業を聞いたりして頭の中に蓄えるものです。「知恵」は体験を通して得た生きた知識や感覚です。そのためには、部活動や学校行事、学校外の生活を通して、自分の世界を大きく広げていくことです。以上、新入生への歓迎の言葉として、「一度しかない中学時代をどのように過ごせば良いのか」という点について、大きく三つのことお話ししました。

結びに、アメリカの詩人ウィルコックスの「人生の嵐」という詩を贈ります。「吹いている風が全く同じでも、ある船は東へ行き、ある船は西へ行く。進路を決めるのは風ではない。帆の向きである。人生の航海でその行く先を決めるのは、風でもなければ、嵐でもない。魂の構えである。」小手指中に吹いている素晴らしい風を捉え価値ある人生の基盤をつくってほしいと心から願っています。



小手中桜満開